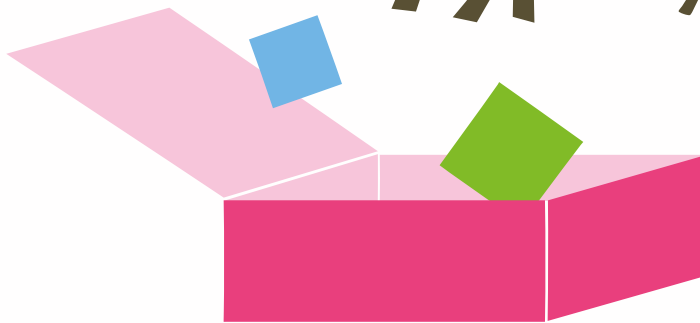


京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展

ART であしあと 7

正方形の扉から



版画専攻共同制作
“PRINTLAB”

2016年8月4日(木) - 8月14日(日)

11:00 - 19:00 (最終入場 18:30 / 月曜休館)

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

正方形の 扉から

版画専攻共同制作
“PRINTLAB”



PRINTLAB 1998：京名所十三景

学生と教員の関係から生まれる学びの足跡を、作品を通して紹介する「アートであしあと」の第7回は、本学芸術資料館の収藏品より、本学の版画専攻において毎年制作されている共同制作“PRINTLAB”を紹介します。

本学における版画教育は1963年にはじまります。当時はまだ正規のカリキュラムはなく、西洋画科に吉原英雄・古野由男を迎え、集中実技として行われました。やがて60年代末の学生運動を受けて大学の改革案が作られ、同科の中に版画教室が設置されたのが1970年です。そして大学が沓掛に移転した1980年からはそれまで西洋画専攻の中におかれた版画教室が版画専攻として独立して今に至ります。本学の半世紀に及び版画教育の歴史は、京都の版画創作の拠点として重要な役割を果たしました。

沓掛校舎に生まれた版画専攻では、やがて授業の中にポートフォリオの制作を組み込むようになります。ポートフォリオとは、本来書類を入れる平らなケースのこと。版画のシートをひとつにまとめた組作品をいいます。はじめは、それぞれの学生が自分の作品で組作品を作っていたのですが、やがてひとつの主題のもと、卒業生・修了生が共同制作するようになります。現在大学に遺る最も古いポートフォリオが8枚のシートで構成される“音”で、1994年の卒業作品として買い上げられました。それまで、大きさがばらばらだったものを25cm四方に統一して、ひとつの規格の中で工夫を競うようになります。1996年からは大きさのみならず装幀も規格化された“PRINTLAB”のシリーズが始められます。ユニークな制作の主題は、作者たちが相談して決定します。意外な主題をどのような切り口で自分自身の表現に変えていくのか、小さな世界ですが実に多様です。“PRINTLAB”は現在も継続して制作されており、毎年芸術資料館の資料として登録されています。版画専攻の学生の作品は、ほぼ全員のものが、学校に保存されていることになります。

版画に興味を持たれる方はもちろん、多様なテーマと多彩な技法による視覚的な面白さは、どなたにも楽しんでいただけるものと思います。皆様どうぞごゆっくりご鑑賞ください。

出展作家：マツモトヨーコ、浅田香苗、内山彰、大崎のぶゆき、関谷由子、三宅砂織、森田健、太田地子、大西伸明、集治千晶、石本幸江、太田興美、大淵信也、小谷緑、神田和也、橋原こころ、林聖子、古田陽子、本多由美子、吉田倫子、林堅哉、堀部恵美子、カレン・マイヤー、伊藤匡倫、大山康太郎、勝山信隆、川崎友恵、鈴木ミオ、福井隆介、福田真美、山田摩耶、吉田宣代、池田和正、岡林紀、村井美々、岸雪絵、田中良平、上原徹、赤城裕美、久保田愛、安藤紫野、野嶋草、森末由美子、牧彩子、浦井望、水口芳代子、石黒英彦、北野裕子、菊池薫、荒木悠、伊勢村美幸、伊藤ふくみ、伊藤学美、稲端渚、河股由希、貴志綾香、楠本孝美、講殿美由紀、白川舞、高野佳奈子、中川遼、長池裕子、野嶋一生、村井都、太田美由紀、木塚奈津子、今野はなみ、千葉あかね、中川温佳、西尾明日香、西田千紗、野尻恵美、野田愛香、梶場未憂、平田彩乃、藤田紗衣

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA (アクア)

〒604-0052 京都市中京区押小路町238-1 | 075-253-1509 | <http://gallery.kcuu.ac.jp>

京都市営地下鉄：東西線「二条城前」駅（2番出口）南東へ徒歩約3分

バス：「堀川御池」バス停下車すぐ

